

キリスト教保育

2024年6月1日発行（毎月1回1日発行）第663号

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

論説

未来の自分をつくる食
料りが好きでも嫌いでも
本多京子

小論

子どもと虫との関わり
鑄物太郎



2024 JUNE.

6

あなたの父と母を敬え。

聖書 口語訳聖書・エペソへの手紙6章2節

今月の聖書の言葉は、遠い昔、十戒の第五戒として与えられ、新約の時代、エフェソ教会への勧めとして語られた。しかも、今日もなお、私たちに与えられている生ける神のことばである。長い歴史の流れを貫いて、ひたすら、生ける神を信じて歩んできた、聖書の人々の信仰と生活とが、この短いことばの中に凝縮されていることに驚かざるをえない。どんな聖書のことばも、単なる教理や倫理の教えるではなく、そこで今も、新しく神との出会いが起こされているのである。

十戒は二枚の石の板に記されていたと言われるが、第一の板（多分、第一戒～第四戒）は、神に対するあり方を教え、第二の板（第五戒～第十戒）は、人に対するあり方を示している。第一板と第二板は、内容的に分離されるべきものではなく、神についての戒めは、人についての戒めの根拠であり、第二板は第一板の展開といえるであろう。「父と母を敬え」という第五戒は、第二の板の最初—いわば人間倫理のはじめ—に置かれている。ここで、親を敬うことと、神を敬うことは、深く結ばれていることを知らねばならない。

神への信仰を土台とする、親と子の関係は、新しいイスラエルとして、召された新約の人々（教会）においても、継承されていったのである（キリストを中心とすることは、いうまでもない）。エフェソの信徒への手紙6章1～4は、そのことを示している。「子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい」「主に結ばれている」とは、キリスト中心の家庭と人間関係を指し示す、大切なことばなのだ。

信仰の家庭とは何か—夫が主でも、妻が主でもない。親が、また、子どもが主でもない。本当に、イエスを主とし、主イエスを中心とする家庭のことばだろうか。みことばによって、一日一日、建設され、祈りによって、一步一步、成長を与えられていくのである。真に、信仰を土台とし、愛を中心とする、家庭や園が、いかに必要なことであろうか。

「父と母を敬え」—それは、昔の上下関係や権威主義への服従ではなく、父なる神への服従に根源し、真実の意味で、神の愛を中心とする家庭としての、秩序と交わり、尊敬と信頼—親と子、パートナー、保育者と園児、保育者などを生み出していききたいものである。

（田井中 純作・執筆 当時・日本キリスト教団倉敷教会牧師）
1975年『キリスト教保育』誌5月号より

キリスト教保育

第663号6月号

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう



幼子とともにキリストへ
目次

《巻頭言》こそだて・いま・きみ・わたし

福田 翔

4

《論説》未来の自分をつくる食料料理が好き

でも嫌いでも 本多京子

6

《小論》子どもと虫との関わり 饅物太郎

14

聖書にきく・お話 月下星志

18

子どもと賛美するために

21

図書紹介 橋本成美 中道幸子

22

【カリキュラム】

6月 月のねがい表

心にとめて 海野美代子

実践報告 清和こども園

実践からの学び 金澤直子

心にとめて 小出馨

実践報告 善隣幼稚園

実践からの学び 木村創

子どもの祈り

42 41 36 34 33 26 24 23

絵本のとびら 橋本佳南
私たちの園では 赤坂洋子

《連載》小さな庭だより 高浜真理子

《連載》日々、子どもたちから

学んでいること 齋藤惇夫

目福口福耳福 島山修

礼拝のお話 近藤希望

風 塚本潤一 編集子 東義也

連盟だより

64 63 54 53 50 46 44 43

カット 中畝治子 小鯛みのり 松成真理子 金井ユリ
表紙絵 田中榎子

